

## 豊橋市民病院で発生した医療事故について

「右膝脂肪腫性母斑に対する皮膚腫瘍切除術後、右下肢にしびれ及び感覚鈍麻が残存した事例」

### 1 事故の概況

平成24年12月に患者さんが、右膝脂肪腫性母斑に対して皮膚腫瘍切除術を受けました。術後から右下肢にしびれ及び感覚鈍麻があり、退院後も症状が持続したため、当院整形外科を受診したところ右外側腓腹皮神経の損傷が疑われました。以後当院への通院にて投薬治療及び経過観察を継続しましたが、平成29年5月になってもしびれ等の症状が残存したためこれ以上の回復が見込めないと判断しました。

その後、神経損傷の危険性についての説明が不足していたことから、双方代理人の協議により和解することに合意するものです。

### 2 改善策

- ・手術同意書に神経損傷について記載するとともに説明も必ず行います。
- ・手術部位が広範囲になる場合には、診療科内における術前カンファレンスをしつかりと行うとともに、経験豊富な上級医が手術に同席します。